

新 知 故 温

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(42) 平成14年3月1日

明治初期の教科書(その2)

福澤諭吉訳編『どうもつおをしへぐさ童蒙をしへ草』(159/チャ)

道徳の内容を教科書によって教えることは古くから行われており、江戸時代にも藩校においては『小学』『孝経』や四書五経などが、また寺子屋では『実語教』『童子教』『三字教』、女子教育には『女大学』等が広く教科書として用いられていました。

明治5(1872)年9月に公布された小学教則には、教科目名・配当時間・教授要旨・標準教科書が示されていますが、道徳つまり修身の科目「きうしんくわう修身口授」の教科書として、第8・7級(小学校第1学年)では『小学教諭みんかどうもつかい民家童蒙解』、『童蒙をしへ草』、第6級(第2学年前期)では『たいせいけんせんくもつ泰西勸善訓蒙』、『修身論』が掲げられています。この「修身口授」はその言葉通り教師がこれらの教科書を使って生徒に講述するものでした。以下、これら教科書の簡単な紹介をします。

『小学教諭民家童蒙解』(青木輔清訳/明治7年刊・375/275)は、アメリカの倫理学者ウェイランド(Francis Wayland 1796~1865)の小学生向けの倫理啓蒙書『ウィズダム(Wisdom)ウィズダム』を抄訳したもので、序文にある様に俗話や例話をうい、幼童女子に解り易く説いている修身の入門書でした。

『泰西勸善訓蒙』(箕作麟祥訳/前編明治4年・後編6年・続編7年刊・375/293)は修身教科書としてのみならず、一般の読み物としても広く普及しました。前編はフランスのボンヌの小学校用教科書を、後編は米国のウィンスロウの道徳哲学書『モラル・フィロソフィー(Moral Philosophy)モラル・フィロソフィー』を、また続編は米国ロウレンス・ヒコック(Laurens Hickok)の『システム・オブ・モラル・サイエンス(System of Moral Science)システム・オブ・モラル・サイエンス』をそれぞれ抄訳したもので、その内容は、個人の倫理から国政論まで多岐に渡っています。

『修身論』(阿部泰蔵訳/明治5年刊・K163/8)は、前述のウェイランドの『エレメンツ・オブ・モラル・サイエンス(Element of Moral Science)エレメンツ・オブ・モラル・サイエンス』を抄訳したもので、寓話・逸話類は用いず、道徳原理の概説とその実践について説いた、抽象的で程度の高い公民教科書でした。

ウェイランドの書は当時多数翻訳され、同じ原著から十種類もの翻訳書が作られ使用されることもあり、翻訳修身書はウェイランドに代表されると言っても過言ではありませんでした。これは、福澤諭吉が早くから彼の書を高く評価し、米国より取り寄せ慶應義塾の教科書として、購読に用いた事によります。経済学と共に修身学の原著が、諭吉の推挙により広く普及し多くの人々がこれを翻訳教科書として編集し小学校で使用することになった訳です。

福澤諭吉については今回特に触れませんが、彼は明治初期各方面に渡り、平易で親しみ易い体裁を採った啓蒙書を多数著述し、これらは教科書として当時広く使用されました。

諭吉の『童蒙をしへ草』(初版明治5(1872)年・再校版明治13(1880)年は『童蒙教草』と表記)は初編3冊、二編2冊の計5冊からなっています。原著は英国人チェンバース(Robert Chambers)本書にはチャンブルとなっている)著の『モラル・クラスブック(Moral Class Book)モラル・クラスブック』で、訳書の序文に明らかにしているように、西欧思想・諸学の皮相かつ無秩序な当時の世間の理解を正すことを目的とし、特に年少者に対しこれらの諸思想の根本を理解させることによって、西洋諸学を研究し応用する際の基礎入門書となるように訳出したものでした。

全編29章に分かれ、各章の始めにその章の主題となる道徳について一般的な解説が加えられ、その後に寓話・逸話などが実例として掲げられています。道徳の配列は必ずしも体系・論理的ではありませんが、第1章「動物を扱ふ心得の事」に始まり、様々な人間関係における道徳・勤労等の個人の道徳を説き、最後には国家に対する道徳(「我本国を重んずる事」第29章)を取上げるなど、個人的・経験的な道徳から社会抽象的な道徳へと移行するよう工夫されており、児童心理への配慮もされています。

諭吉自身、後年『童蒙をしへ草』の出版当時を顧みて「古来外国人の事を禽獣のやうに云ひ囃し紅毛人の尻には尾があるなど思ひし輩の迷を説く為には随分有力なる翻訳書なりしと思ふ」(『福澤全集緒言』当館所蔵081.6/71)と述べているように、『泰西勸善訓蒙』『終身論』等と並び明治初年に普及した代表的な修身書でした。

当館所蔵は、初版明治5年の尚古堂版(159/チャ)と明治13年・福澤氏蔵版の再校版(K081/51)です。

【参考文献】

『日本の教育と教科書のあゆみ』(375.9/183)